



2020 年度

第6回 会社決算書アナリスト試験

問題用紙

(試験時間 1時間30分)

—受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。

数値計算上の注意！

1. 各指標について、数値は、算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。例えば、9.46%の場合は、「9.5%」、10.34回の場合は「10.3回」と解答すること。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。損失の場合も同じく、△を付け、利益の場合にはつけない。

第1問

次の1. から10. の文章について、正しいものには○を、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

1. 経常利益5千万円をあげた企業の経営者と10億円をあげた経営者の経営能力を比較して、前者の経営者の方が利益を生み出す経営能力が高いというためには、比率分析の手法によらなければならない。
2. 資本金5億円の企業と10億円の企業とでは、10億円の企業の方が株主から多くの資金を集めていると言える。
3. デパートにおいて、売上高売上総利益率つまり粗利率が低下した時、売上増進にとって必要な運転資金調達のための借入金の利子負担も低下の原因となる。
4. 翌期のボーナスの支払いに備えて、賞与引当金を計上すれば、当座比率（酸性試験比率）が悪化する。
5. 棚卸資産回転率が前期と比べて高くなった（良くなった）場合、売買目的有価証券の減少も原因の一つになる。
6. 使用資産経常利益率の使用資産額の計算において、建設仮勘定を排除してはならない。
7. 総資産負債比率が高まれば、純資産負債比率は低くなる。
8. 安定配当政策（1株当たり配当金を一定額に固定する政策）を採っている企業において、会計期間を通じて株数に変化がない場合、当期純利益が前年度より低く（悪く）なると、配当性向は前年度より高く（良く）なる。
9. キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローの部には、法人税等の支払額が計上される。
10. 企業が将来の事業発展のために積立金を設定したかどうかを知るには、株主資本等変動計算書を見れば分かる。

第2問 次の<資料>に基づき、問1から問3に答えなさい。

問1 文中のAからDの中の適切な指標の番号を記入しなさい。

問2 文中の①から④を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意！」に従うこと。

問3 文中のXについて、適切な言葉の番号を記入しなさい。

<資料> T社 有価証券報告書「第1【企業の概況】【主要な経営指標等の推移】」の一部抜粋

回次	第X1期	回次	第X1期
決算年月	20X1年12月	決算年月	20X1年12月
売上高 (百万円)	78,715	1株当たり配当額 (円)	47
経常利益 (百万円)	62,686	1株当たり当期純利益金額 (円)	200
当期純利益 (百万円)	182,575	株価収益率 (倍)	?
純資産額 (百万円)	950,372	配当性向 (%)	?
1株当たり純資産額 (円)	1,041	最高株価 (円)	2,840
		最低株価 (円)	1,790

「これからは自助」という首相就任演説を聞いたあなたは、この言葉に驚き、今後の生き方について対策を考えることにした。元々、国家財政は赤字国債に頼っている上に、このコロナ対策で更に深刻化している。一方で、消費税反対を叫んでいる野党もいる中では、自助の意味は、北欧のような福祉国家とは違い、これからの時代、どうやって生きていくかは、自分で考えていけという意味であると解釈した。

そこで、将来に備えて、貯金を考えても、日銀の低金利政策で、定期預金の利息が0.02%程度の現状では、これに頼ることはできない。一方、企業にROE 8%を達成すべきとする目標を課している状況では、株式投資に活路を見出さざるをえないと考え、<資料>の株式の情報により、株式投資の勉強をすることにした。

まず、投資であるから、利息の受け取りのように投資の果実つまりA（ 1. 配当利回り 2. 配当性向 ）を見なければならない。今、株価が最高値の2,840円で投資したとすると、Aは（ ① ）%になる。これは確かに、定期預金の利息などは問題にならず、非常に良いことが分かった。しかし、配当の源泉は企業の利益であるから、企業が利益のうち、どの位、株主に還元しているかも見なければならない。つまり、どの位、余裕をもって配当を行っているかである。このためにはB（ 1. 配当利回り 2. 配当性向 ）を見なければならない。Bは（ ② ）%になる。この企業は余裕をもって配当しているようである。

更に、企業の儲けつまり利益で投資額つまり株価を回収するのにどの位の年数がかかるかを見ることも必要である。それを示すのがC（ 1. 株価収益率 2. 株価純資産倍率 ）であり、Cを最高株価で計算すると、（ ③ ）倍になる。

ところで、企業は決算書により、会計上の企業の価値も公表している。ということは、会計で計算した価値と較べて、市場の評価がどうかも調べておく必要がある。そこで、D（ 1. 株価収益率 2. 株価純資産倍率 ）を、これも最高値で計算してみると、Dは（ ④ ）倍となる。これにより最高株価は、1倍を基準とすると、X（ 1. 割高 2. 割安 ）であることが分かった。

ところで、投資するときには、果実からの視点だけではなく、企業活動自体の分析つまり決算書分析が必要になることも分かり、決算書分析の勉強を更に進める決心をした。

第3問

P君は、近年急成長を遂げている小売業のM社に関心を持ち、会社決算書アナリスト試験の勉強をともに進めているQさんとこの企業の分析を行ってみることにした。＜資料1＞は、M社の貸借対照表を示しており、＜資料2＞は、主な関連指標を示している。また、貸倒引当金はすべて売掛金にかかるものであると仮定する。彼らの会話をもとに、問1から問3に答えなさい。

問1 ①から⑥の指標を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意！」に従うこと。

問2 文中のAからCについて、適切な文言の番号を記入しなさい。

問3 下線(1)、(2)について、目安となる、つまり計算上好ましいと考えられる基準値は、それぞれ何%であると言われるか。解答用紙に示された選択肢の中から、基準値として適切な数値を解答欄に書き入れなさい。

P君 「M社の業績の伸びはすごいね。売上高は、前年度を100とすると、約137.8、当期純利益も、約136.3と、大幅に拡大しているね。」

Qさん 「確かに、そうね。だけど、急成長している企業ほど無理な投資をして、安全性に問題が出てくると言われるわ。貸借対照表で、安全性を見てみましょうよ。」

P君 「安全性といえば、まずは短期の安全性から見るのが大切だと習ったなあ。企業の資金繰りは大切なことだから、流動比率を計算してみようよ。当期は(①)%になるね。前期を100とすると、約94.0だから下がっているけれど、わずかなものだね。前期・当期ともに目安となる基準値⁽¹⁾を超えているから、問題はなさそうだ。」

Qさん 「でも、より厳密に、当座比率の計算もしてみましょう。この比率を見ると、(②)%だわ。前期を100とすると、約86.5で流動比率と較べると、少し悪くなっているわ。だけど、これも、目安となる基準値⁽²⁾を超えているわね。」

P君 「そうだね。でも、短期の安全性が悪化した原因が本業にあるのなら、これにも注意が必要になるね。これを確かめるために、当期の売上債権対仕入債務比率を計算してみよう。計算結果は(③)%だ。この比率が100%をA(1. 上回っている 2. 下回っている)場合は、その業界の取引の実状によるけれども、計算上、形式的には問題がないと言えるよね。」

Qさん 「次に、長期的な安全性を見てみましょう。全社的な財務構造は、資産に対する負債の割合を計算することによって分かるわね。当期の総資産負債比率は(④)%で、前期を100とすると、負債の視点で、約105.1で、短期と同じようにやはり少し悪くなっているみたいね。」

P君 「そうだね。でも、それだけじゃあ、分析は十分ではないよ。M社は売上が拡大しているから、新しい投資が必要になってくると思うんだ。そこで、現時点で、この企業が行っている固定資産投資の調達資金が安全な源泉からえているのかを確認するためには、B(1. 銀行家比率 2. 純資産負債比率 3. 固定長期適合率)も見る必要があるね。これも計算してみよう。」

Qさん 「計算結果は(⑤)%で、これも前期を100として、そんなに悪化していないみたいね。ここまで見てくると、全体としてそこまで大きく安全性が悪化しているわけではなさそうね。なぜかしら？」

P君 「キャッシュ・フローを見てみると、そのヒントが掴めそうだよ。当期の当期純利益キャッシュ・フロー比率は(⑥)%で、前期を100として約379.7にもなり、大幅に改善されているね。これに加えて、貸借対照表で、短期借入金項目の動きを見ても予想できるように、営業活動に用いるための投資資金をC(1. 営業活動 2. 財務活動 3. 投資活動)から得ていると言えそうだ。」

<資料1>

貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日
資産の部			負債の部	
流動資産			流動負債	
現金及び預金	44,220,520	45,240,802	買掛金	5,048,291
売掛金	9,408,267	13,811,030	短期借入金	1,350,000
商品	7,198,629	13,660,407	リース債務	115,330
貯蔵品	29,400	19,994	未払金	2,324,170
前払費用	64,369	101,350	未払法人税等	3,291,314
未収入金	34,759	44,290	未払消費税等	504,366
1年内回収予定の差入保証	544,994	498,562	未払費用	286,756
その他	97,735	389,685	前受金	35,358
貸倒引当金	△ 1,888	△ 1,386	預り金	19,297
流動資産合計	61,596,785	73,764,734	役員賞与引当金	49,040
固定資産			役員退職慰労引当金	100,000
有形固定資産			リース資産減損勘定	10,520
建物	14,080,364	15,521,374	その他	146,608
減価償却累計額	△ 6,103,450	△ 6,442,820	流動負債合計	13,281,050
建物(純額)	7,976,914	9,078,554	固定負債	
構築物	3,482,619	3,708,654	リース債務	1,017,372
減価償却累計額	△ 2,179,073	△ 2,250,444	長期預り補償金	842,468
構築物(純額)	1,303,546	1,458,210	長期リース資産減損勘定	7,025
車両運搬具	27,656	76,556	資産除去債務	1,108,411
減価償却累計額	△ 12,135	△ 21,790	固定負債合計	2,975,276
車両運搬具(純額)	15,521	54,766	負債合計	16,256,326
工具、器具及び備品	2,095,256	2,863,786	純資産の部	
減価償却累計額	△ 1,082,042	△ 1,343,817	株主資本	
工具、器具及び備品(純額)	1,013,214	1,519,969	資本金	1,622,718
土地	3,988,232	3,988,232	資本剰余金	
リース資産	1,586,926	1,664,726	資本準備金	1,342,600
減価償却累計額	△ 701,408	△ 807,663	資本剰余金合計	1,342,600
リース資産(純額)	885,518	857,063	利益剰余金	
建設仮勘定	9,608	11,986	利益準備金	178,620
有形固定資産合計	15,192,553	16,968,780	その他利益剰余金	
無形固定資産			別途積立金	23,150,000
商標権	3,493	3,306	繰越利益剰余金	40,649,034
電話加入権	44,288	44,288	利益剰余金合計	63,977,654
ソフトウェア	218,954	408,082	自己株式	△ 66,884
無形固定資産合計	266,735	455,676	株主資本合計	66,876,088
投資その他の資産			評価・換算差額等	
投資有価証券	3,644	3,173	その他有価証券評価差額	1,361
出資金	10	10	繰延ヘッジ損益	49,609
長期前払費用	611,695	596,833	評価・換算差額等合計	50,970
繰延税金資産	1,128,993	1,353,318	純資産合計	66,927,058
差入保証金	4,373,377	4,370,251	負債純資産合計	83,183,384
その他	38,417	38,417		
貸倒引当金	△ 28,825	△ 28,825		
投資その他の資産合計	6,127,311	6,333,177		
固定資産合計	21,586,599	23,757,633		
資産合計	83,183,384	97,522,367		

<資料2>

関連指標

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	66,969,390	92,307,976
営業利益	13,526,518	19,170,535
経常利益	14,755,717	20,666,848
当期純利益	9,809,914	13,369,465
現金及び現金同等物の増減額	1,546,464	8,020,282

第4問

コロナ禍の中、東証一部に上場している外食産業のR社が株主総会の決議を得て、早期退職の募集広告を出したことを知った証券会社に勤めているA氏とB氏は、この会社の直近の第1・2四半期報告書を手に入れ、実態を分析することとした。それが下に示した<資料>である。これに基づいての問1と問2に答えなさい。

なお、この<資料>は以下の問題（会話）に関わる部分のみを示した資料となっている。

問1 会話の中の①から③の指標を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意！」に従うこと。

問2 会話の中のAからCについて、適切な文言の番号を解答欄に記入しなさい。

<資料> R株式会社の四半期財務データ

損益計算書 (単位:百万円)

	第1四半期 X1年1月1日～3月31日	第2四半期 X1年4月1日～6月30日
売上高	25,000	14,000
売上原価	8,000	5,000
売上総利益	17,000	9,000
販売費及び一般管理費	20,000	18,000
(うち、給料)	(9,000)	(9,000)
営業利益(損失)	△ 3,000	△ 9,000
営業外収益	100	100
営業外費用	300	600
(うち、支払利息)	(150)	(200)
経常利益(損失)	△ 3,200	△ 9,500
特別利益	0	0
特別損失	300	400
当期純利益(損失)	△ 3,500	△ 9,900

貸借対照表

(単位:百万円)

	期首 X1年1月1日	第1四半期末 X1年3月31日	第2四半期末 X1年6月30日
資産の部			
流動資産	17,000	22,800	27,300
(うち、現金及び預金)	(5,000)	(8,300)	(12,100)
固定資産	95,200	91,600	88,080
(うち、投資有価証券)	(20,200)	(18,100)	(16,080)
資産合計	112,200	114,400	115,380
負債の部			
流動負債	20,000	25,800	36,700
(うち、短期借入金)	(10,000)	(15,000)	(25,000)
固定負債	30,000	30,000	30,000
負債合計	50,000	55,800	66,700
純資産の部			
株主資本合計	62,000	58,500	48,600
評価・換算差額等	200	100	80
純資産合計	62,200	58,600	48,680
負債純資産合計	112,200	114,400	115,380

- A 氏 「この会社は、外食産業の旗手として増収増益で注目されていた会社だったから、我々もお客さんに株の購入を勧めてきたよね。しかし、この前の記者会見で、コロナの影響で大きく損失を計上したという報告があったよね。こうなった以上、会社の現状をお客さんに説明しなければならないね。」
- B 氏 「その通りだ。それが証券人の任務だし、我々の信用にも関わるね。この会社は株主を重視して ROE 8%を維持してきたから、株の購入を勧めてきたのだよな。それでは、ROE（株主資本利益率）を計算してみよう。第1四半期でもう（ ① ）%にもなり、本当に悪くなっているね。」
- A 氏 「これは、コロナによる売上高の減少によることは分かっているけれど、経営の実態はどうなんだろう。」
- B 氏 「それでは、業務の直接的な効率を示す売上高売上原価率を見てみよう。第1四半期が30%台で、第2四半期が（ ② ）%だから、効率はほとんど差がないね。しかし、売上高営業利益率をみると、第1四半期が△10%台で第2四半期には（ ③ ）%に低下しているから、明らかに、原因は、販売費及び一般管理費にあるね。」
- A 氏 「その中でも、人件費（給料）が大きいね。これはこの種の企業の特徴だよな。」
- B 氏 「それにしても、気になるのが、売上高が大幅に減っているにもかかわらず、現金及び預金が増加していることだよ。」
- A 氏 「これは、恐らく給料の支払いを考えているのが一番大きいのではないかな。」
- B 氏 「それでは、その資金をどこから手当てしたのだろうかね。」
- A 氏 「それは、損益計算書のA（ 1. 営業損益計算 2. 営業外損益計算 3. 特別損益計算 ）の部を見れば分かるよ。借入利息の支払額がここに計上されているからね。この企業は当座の支払資金を銀行から得ているのだろうね。これは、貸借対照表のB（ 1. 流動負債 2. 固定負債 3. 株主資本 ）の部を見ても分かるよ。」
- B 氏 「他にも手当てはないのかな？」
- A 氏 「長期の投資目的で持っていた有価証券を売却して資金を確保する方法もあるね。ほら、固定資産が減少しているよね。この行動は、損益計算書ではC（ 1. 営業損益計算 2. 営業外損益計算 3. 特別損益計算 ）の部にも現れているよ。この企業は無理をして資金を確保しているみたいだね。」
- B 氏 「ふーん。この会社の経営陣は労働者のことも考えているんだね。人員整理もやむを得ないか。広告では、自分達の報酬の減額にも触れているしね。」